

予算額

16,349,865 円

トップアスリートによる巡回指導

巡回指導先団体総数	9 団体			
巡回指導先団体内訳	総合型クラブ	スポーツ少年団	学校	その他
	1 団体	2 団体	1 団体	6 団体

トップアスリート総数	21 名			
トップアスリートの内訳 (大会出場別)	オリンピック	国際大会	全国大会	その他
	2 名	6 名	5 名	8 名

アシスタントコーチ総数	8 名
-------------	-----

指導種目	サッカー、バレーボール、ソフトボール、自転車、陸上
------	---------------------------

◆効果を高めるための工夫や取組など

- ・ クラブ等の関係者などどのような指導を望んでいるのか事前に話を聞き、それにそう事ができるように指導を行うように心がけた。
- ・ スポーツを行ないながら、チームプレーや仲間を意識することを考慮しながら指導を行った。
- ・ 失敗を恐れずに、挑戦することの大切さを現役の選手たちに話をしてもらった。

◆成果と課題

〔成果〕

- ・ トップアスリートが子ども達へ指導を行うことで、プレーヤーとして気付かなかったことが理解できた。
- ・ 指導を行うために、指導者として必要な知識を学ぶ機会が増えた。
- ・ 子ども達のスポーツに対しての向上意欲が高まった。

〔課題〕

- ・ 参加人数に応じたトップアスリート、アシスタントコーチの配置
- ・ トップアスリートの試合スケジュールとクラブの希望が合わない。

取組の名称	地域住民への健康づくり支援				
趣旨・目的	<p>クラブの活動拠点のひとつとしている藤沢市において、地域住民の健康づくりに貢献するためには、次に挙げるいくつかの課題を克服する必要がある。</p> <p>①教室参加者の年齢層が中高齢者に偏っており、能動的に健康づくりを開始して欲しい若い世代の利用が少ない。</p> <p>②幅広い年齢層やニーズに応じた保健・健康増進の事業を実施するための専門スタッフが不足している。</p> <p>そこで、当クラブがスポーツカの上昇・健康の増進のための事業を推進している湘南ベルマーレコンディショニングセンターのノウハウを持って事業を実施する。また、地域での知名度を生かし、地域住民に対しての広報活動を行う。</p>				
内容	<p>健康イベントの企画、事業の実施を行った。</p> <p>(1)ビューティ&フィットネス教室 (2)バラエティ教室 《ウォーキング&ストレッチング、アロマストレッチング》 全身を使ったウォーキングとゆっくり身体を伸ばすクラス。アロマを使った癒しのストレッチなども実施。ストレス解消にもピッタリのクラス。</p> <p>《コアエクササイズ》 腹筋、背筋を中心とした体幹部のエクササイズ。きれいな姿勢を保つのに効果的。上記のほかに、『骨盤エクササイズ』、『主婦のためのランニング』などのプログラムを提供した。</p> <p>(3)ランニング教室 単に走るだけでなく、本教室では動き作り・コアトレーニング・基礎作りといった、楽しみながら、効率よく、ケガをしにくい走りを実践すべく様々な練習を行う。そして2月に開催された藤沢市民マラソンへ挑戦し、成果を確かめた。</p>				
対象者	地域住民	参加人数	(1)253名 (2)77名 (3)15名	実施回数	(1)26回 (2)8回 (3)10回
効果を高めるための工夫や取組など	<ul style="list-style-type: none"> 地域のイベントへの参加につなげるプログラムを提供して、参加意識を高めた。 				
成果	<ul style="list-style-type: none"> クラブから参加者を募集することで、幅広い年齢に受け入れられた。 運動不足に陥りがちな高齢者に対し、運動することを通して「体力維持」・「健康づくり」について、進んで取り組む意欲を高めることができた。 参加者の親睦をはかり、仲間とともにいる喜びが、心身の健康にもなることを理解してもらうことができた。 				
課題	<ul style="list-style-type: none"> 住宅地の中に施設があり、平日のプログラムに関しての参加数に極端に差が出てしまった。 				

小学校体育活動支援

派遣先学校総数	116 校
---------	-------

コーディネーター総数	9 名
------------	-----

◆効果を高めるための工夫や取組など

- サッカーを中心として授業の指導計画に関しての相談を常時行えるようにした。平塚市の教職員組合の希望者に対して講習会を開催し、サッカーに関する練習メニューの紹介や指導するポイントに関しての指導をおこなった。

◆成果と課題

〔成果〕

- 子ども達から普段の授業より楽しかったとの声が多かった。
- 先生達とともに授業を行ったことで、クラブの方針でもある「考えさせる」ことを理解していただいた。
- 子ども達の能力差を感じさせないような授業が参考になったとの声が聞こえた。
- 保護者にも自由に見学していただくことで、クラブの活動を理解していただいた。

〔課題〕

- クラブに所属している指導スタッフに限りがあるために、複数回行ける学校が少ない。
- 学校に温度差があり、一緒に授業を作っていく考えのない学校があったことが残念であった。

本事業全体の成果と課題

〔成果〕

- この事業に関して、トップアスリートが子どもたちに指導することが良い経験となった。選手としての立場では理解していても、教える立場になったときにどのような声かけ、分かりやすい言葉を発しているかなど、伝えることの難しさを理解するとともに、指導者の立場になった時に、どのような準備をすべきかを理解したと思う。
- この活動を通じて、他のクラブの皆様にも、ベルマーレの考え、進むべき方向性について伝えることができた。